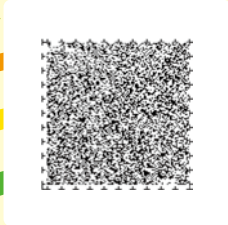


長崎県総合計画

チェンジ & チャレンジ 2025

つながり、ささえ、つくろう 長崎



人が活躍し支えあう

基本理念

産業が育ち活力を生む

地域がつながり安心が広がる

人・産業・地域を結び、 新たな時代を生き抜く力強い長崎県づくり

本県を取り巻く状況は、歯止めがかからない人口減少や、全国よりも早いスピードで進む少子高齢化など、引き続き厳しい状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症が、県民の健康や県内経済に大きな影響を及ぼしており、改めて、人、産業、地域がしっかりとそれぞれの役割を果たし相互に連携・協働しながら、この危機を乗り越え、長崎県の活性化につなげるのが重要になっています。

そのためには、本県の将来を担い活躍していただく人材を育て、共に支えあう社会をつくとともに、それに伴って新たな基幹産業や活力のある産業が育ち、県内に活力を生み出し、さらにそうした支えあいや活力が基盤となって、地域に強いつながりをもたらし、地域での暮らしに安心を生んでいく、長崎県の姿を目指していくことが大切です。

一方で、本県では、今後、長年の悲願である新幹線の開業やIRの誘致をはじめとして、県内各地で様々な大規模プロジェクトやまちづくりの事業が進展し、まちの佇まいが大きく変化する、100年に一度のチャンスを迎えています。

本県においては、これからの5年間、県民の皆様と想いを共有し、直面する様々な課題を解決し難局を乗り越えていくとともに、変化をチャンスと捉え新たな取組にチャレンジしながら、県民の皆様と共に新たな時代を生き抜いていく、力強い長崎県づくりに取り組みます。



長崎県知事 中村 法道

計画の期間

本計画は、10年後の本県の将来像を見据え、5年間の政策の方向性を戦略的に示すものとし、計画期間は令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

キャッチフレーズ

次代を担う高校生・大学生や有識者で構成される次期総合計画懇話会からいただいたアイデア、ご意見を踏まえながら、計画のキャッチフレーズを盛り込みました。このキャッチフレーズのもと、県民の皆様と一緒に長崎の未来を切り拓いていきたいと考えています。



つながり、ささえ、つくろう 長崎

計画の特徴

(1) 計画の実現や発信に向けて

キャッチフレーズの策定

県民の皆様と一緒に長崎の未来を創っていこうというキャッチフレーズを設定しています。

近未来像の盛り込み

本県の未来を大きく変えるプロジェクトが複数動き出すことを踏まえ、県民の皆様が夢や希望を持てる将来像を発信します。

まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合

人口減少対策の方向性を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(R2～R7)と政策体系の共通化を図り、一体的に推進、評価します。



(2) 社会や時代の動きを踏まえた施策の推進

Society5.0 や 2040 年問題への対応

先端技術の進展 (Society5.0の実現) や、人口減少など2040年頃にかけての課題を見通し、対応するための施策を推進します。



施策例

- 健康長寿対策の推進
- 様々な産業分野の人材育成・確保
- スマート農林業、スマート水産業、行政のデジタル化の推進
- 県立大学情報セキュリティ産学共同研究センター(仮称)を活用した産業振興

SDGsの推進

SDGsの理念は本県の施策を進めていく上でも重要な観点であり、SDGsの理念を踏まえながら計画を推進します。

施策例

- 女性が活躍できる場の拡大と男女がともに働きやすい環境づくり
- 貧困に起因する問題を抱える子どもと親への支援
- プラスチックごみ対策の推進

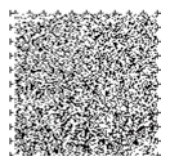


新型コロナウイルス感染症を踏まえた施策

新型コロナウイルス感染症の影響やそれによって生じる社会の変化を見据えた施策を推進します。

施策例

- 病床の確保や設備整備、検査体制の充実
- 感染症に関する専門的な人材の育成
- テレワークなど感染症拡大防止に対応できる労働環境の推進
- 都市部企業等のリモートワーク導入拡大を踏まえたワーケーション等の誘致
- 経済の回復期において、本県企業の優位性を発揮できるよう県内製造業の設備投資や生産性向上の取組を支援



時代の潮流

- 人口減少、少子化、高齢化の急速な進行
- 価値観・ライフスタイルの多様化や新しい生活様式の広がり
- 暮らしや社会を大きく変えるSociety5.0の実現
- グローバル化の進展
- 外国人労働者の増加
- 持続可能な開発、発展への意識の高まり (SDGs)
- 本県の未来を大きく変える新たなまちづくりや産業づくりの進展 (新幹線、IR、MICE施設など複数の大型プロジェクトの進展)
- 環境問題や自然災害の頻発化・激甚化とインフラの老朽化の進行
- 様々な社会問題や健康危機に対する県民の不安の高まり



本県の課題

- 全国より深刻な人口減少、少子高齢化
- 長年低迷する一人当たり県民所得
- 地域活力の低下 (担い手不足、公共交通の利便性の低下等)
- 離島振興
- 脆弱な財政基盤
- 気候変動や海洋環境の悪化によるリスクの増大



本県の強み

- 本県の未来を大きく変える新たなまちづくりの進展 (新幹線、IR、MICE施設など複数の大型プロジェクトの進展)
- 新しい成長産業の芽 (海洋エネルギー関連、AI・IoT・ロボット関連、航空機関連)
- 人材の育成力
- 全国有数の暮らしやすさ
- 変化に富んだ美しく豊かな自然
- 多様な歴史、文化
- 個性あふれる離島と豊かな海洋資源
- アジアとの近接性
- 世界平和に向けた発信力

まちや産業の大きな変化 (チェンジ)

課題を解決し、難局を乗り越えるとともに、強みを活かし、変化をチャンスと捉えて、今から行っておくべき取組を着実に進めていきます。



SDGsの推進

- 「SDGs(持続可能な開発目標)」は、2015年(平成27年)9月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、17のゴールと169のターゲットで構成され、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むための国際社会全体の目標です。
- 地方自治体にとっても、SDGs達成に向けた取組は、人口減少、地域経済の縮小等の地域が抱える課題の解決に資するものであり、様々な関係者と連携のうえ、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されています。
- SDGsの理念は、本計画の施策の方向性とも重なっており、本計画の施策を着実に進めていくことが、SDGsの推進につながるものと考えております。
- 県民の皆様と共にSDGsの推進に取り組み、県としての役割や使命を果たすことで、SDGsの目標達成に貢献していきます。

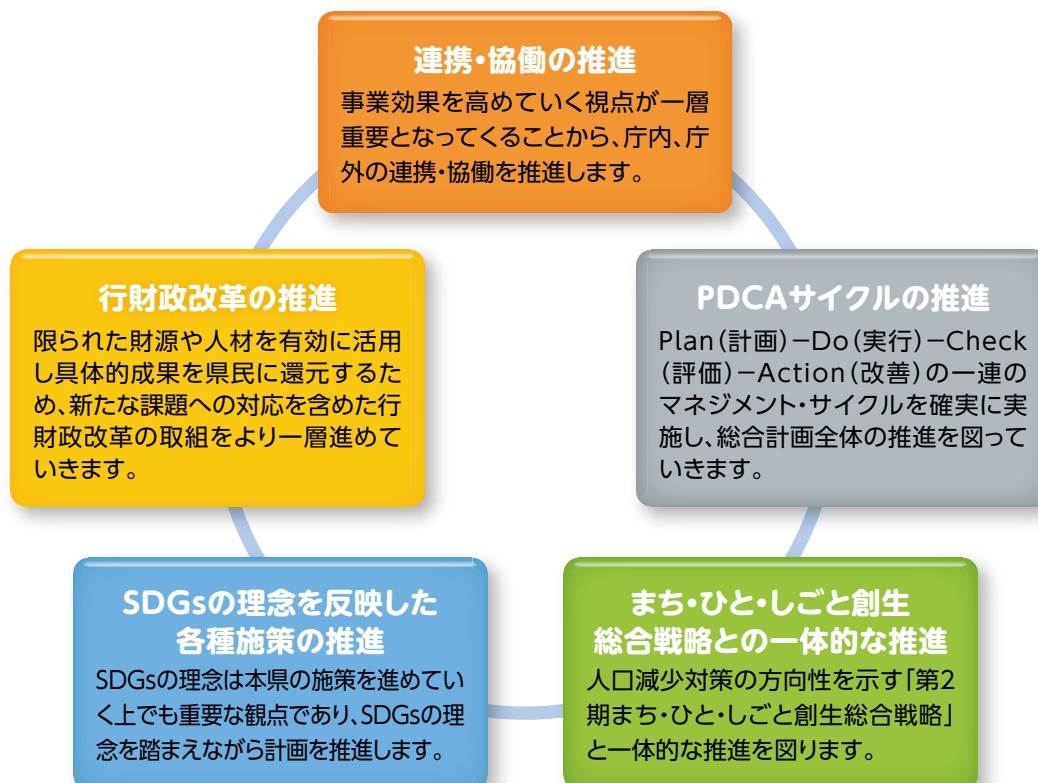


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

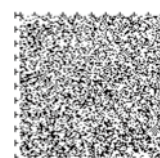


計画の実現に向けた基本姿勢

人口減少や少子高齢化など厳しい将来見通しに向き合いながら県民が夢や希望を持てる長崎県の未来をつくるためには、予算や人員を適切に配分、投入し、絶えず効果的かつ効率的な行政運営に努めていく必要があります。また、市町、民間、大学等と連携を図るとともに、県民の皆様のニーズを把握し、意識を共有しながら計画の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。



まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体的な推進
人口減少対策の方向性を示す「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体的な推進を図ります。



長崎県の近未来像

長崎県は「まち」の佇まいが大きく変わり、また産業構造にも大きな変化が生じており、まさに、100年に一度の変化(ながさきレボリューション4.0)が到来しています。

長崎県が今後更に発展していくためには、この大きな変化(チェンジ)をチャンスと捉え、県内産学官の相互連携や、県外の企業・大学の皆様とのパートナーシップを構築しながら、積極的にチャレンジしていくことが必要です。

このチャンスに、皆さまと力を合わせながら、県民の皆様が夢や希望を持ち、若者の皆様が発揮できる、魅力ある長崎県づくりに全力で取り組みます。

Change

チェンジ 100年に一度の変化(ながさきレボリューション4.0)が到来!

ながさきレボリューション4.0とは

- 長崎における100年に一度に相当するような「都市革命(まちづくりの革命)」であり、第1次(室町時代:ポルトガル船の入港など南蛮貿易の中心地)、第2次(江戸～幕末近代化期:日本唯一の貿易地「出島」、開国後は貿易や漁業、石炭採掘などの多くの事業が展開)、第3次(戦後からの復興期)、そして現在進行しているのは第4次革命(令和のまちづくり革命)です。

まちが変わる!

～陸・海・空の交通ネットワークとアジアの核となる拠点の整備～

九州新幹線西九州ルートの開業

- 令和4年秋、ついに長崎に新幹線がやってきます!(対面乗換方式)
新幹線の開業によって、来訪者の増加や観光産業をはじめとした産業の振興、地域活性化が図られます。
- 国際クルーズ港の整備や、長崎空港の24時間化などにより多くの人が訪れ、交流で賑わう長崎県を目指します。



新幹線「かもめ」

特定複合観光施設(IR)の整備

- 国内外からの新たな玄関口となるIRが実現すれば、交流人口が大きく拡大するとともに、地域経済へ大きな波及効果がもたらされ、新たな雇用が生まれることで、若者の地元定着やUターン就職の機会が拡大するなどの効果が期待されます。



©ハウステンボス/J-19491

各地域で様々なプロジェクトが進行

- 新幹線の沿線市における駅周辺の整備や大手ホテルの進出、サッカースタジアムの建設など、「まち」の佇まいが大きく変わります。
- 県内の各地域において、歴史や地域資源を活用した様々なプロジェクトが進行しており、経済波及や雇用創出など多くの効果が期待されます。



※構想段階のため今後デザイン含め変更の可能性があります
提供:ジャパネットホールディングス

産業構造が変わる！

～相次ぐ新分野での企業進出、さらなるイノベーションの創造へ～

AI・IoT・ロボット関連産業

- 近年のBCP(災害)意識の高まり、人材確保難などにより、本県の強み(災害が少ない、情報系大学の存在、優秀な人材が確保できるなど)が評価され、IT企業の立地が続いています。
- 長崎県立大学及び長崎大学では情報系学部・学科が新設され、人材供給力の強化などにより、さらなる企業集積が期待されます。



航空機関連産業

- 本県には、造船・プラントで培った高い金属加工などの技術を備えた企業があり、企業間連携による事業拡大等の取組を支援し、あわせて企業誘致を進めることで、県内に競争力のあるサプライチェーンを構築します。



三菱重工業 航空エンジン部品新工場

海洋エネルギー関連産業

- 国より実証フィールドとして3箇所の海域が選定され、洋上風力発電事業への参画に向けて、中核企業育成や共同受注体制の構築が進んでいます。
- 海洋エネルギー開発の専門人材を育成するため、産学官連携により、2020年10月、長崎大学文教キャンパス内に長崎海洋アカデミーを創設し、社会人教育に取り組んでいます。



五島市沖浮体式洋上風力発電「はえんかぜ」

半導体関連産業、自動車関連産業など

- 長崎県では様々な企業を誘致し、自動車内装品シートカバー製造や自動車用無段変速機の金属ベルト製造を行う自動車関連産業や半導体関連産業など、多くの企業の皆様に立地をいただいております。



ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
スマホ用CMOSイメージセンサー生産拠点の増強

Chance & Change

チャンスそしてチャレンジ さらなる地域活性化、経済活性化に向けて

変化(チェンジ)をチャンスと捉え、さらなる長崎の発展に

- 100年に一度のこの変化(チェンジ)を、「待ち」の姿勢ではなく「チャンス」と捉え、本県の地域活性化、経済活性化に積極的につなげてまいります。

チェンジをチャンスに、そしてさらなるステップにチャレンジ

- 産学官それぞれが、このチェンジをチャンスと捉え、マインドを切り替えて、連携・協力してチャレンジしていく体制を構築します。
- そのうえで、まちづくりのハード整備を進めつつ、関連イベントの開催や、文化、食、体験といった観光振興などソフト面においても、知恵や工夫を凝らした魅力のある取組にチャレンジし、さらなる効果を高めていきます。

